学校番号	112

令和８年度　社会科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	『歴史総合　近代から現代へ』　改訂版　（山川出版社）						
副教材等	歴史総合 近代から現代へノート改訂版（山川出版社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業スライドや一人一台端末に表示させる文字や画像史料に触れながら、歴史の展開や変化を読み解くことで、現代の世界情勢に繋がる歴史的流れを理解し、その先の社会を見通すことをめざします。
史料の読み解きを通して、個人でのレポート送信で自分の生活に関連させて考えたり、グループで意見を交換して一つの仮説を立てて発表したりします。
スライドを見ながら用語を確認してプリントにまとめ、教科書の記述を読み直すことで復習をしながら勉強してください。

2　学習の到達目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
近現代の歴史の変化にかかわる事象について、さまざまな資料から適切な情報を読み取った上で、現代の諸課題にかかわる近現代の歴史を理解している。	近現代の歴史を通して、社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動から、歴史事象について適切に考察し、議論することができる。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての自覚をもつことができている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	歴史の扉	日本と洋菓子、砂糖と台湾の製糖業を題材に、身近な事柄が、時間的な推移や空間的な結びつきのなかで歴史と結びついていること(「歴史と私たち」)、私たちの生活に関わる制度や習慣が、歴史的に構築されていること(「歴史の特質と資料))について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・身近な砂糖を題材に私たちの生活が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解している。 ・台湾における砂糖の生産を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読みとりと吟味が重要であることを理解している。 b: ・砂糖を題材に近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 ・資料や図版などから適切に情報を読みとり、時期や立場による書かれ方の違いなどを判断している。 ・台湾における砂糖の生産を題材に複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読みとった情報の意味や意義、特色などを整理し、表現している。 c: ・身近な題材に対してみずから「問い」を立て、歴史との関連を追究しようとしている。 ・資料から読みとったことを生徒相互に発表したり、対話したりするなどして、資料にもとづいた考察をしようとしている。 ・資料を読みとる際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

	1 結びつく世界	アジア諸地域の繁栄と日本、ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・16 世紀におけるアジア各地の大帝国の繁栄と、ヨーロッパ諸国のアジア交易への進出を理解している。 ・琉球とアイヌが東アジアではたした役割を理解している。 ・ヨーロッパで成立した主権国家体制と、イギリスやフランスなど各国の国家の特徴について理解している。 ・15～16 世紀にかけてのヨーロッパ人による航海と探検についてまとめている。 b: ・アジア各地に成立した大帝国を比較し、その特徴を考察し、表現している。 ・清と江戸幕府の政治・経済政策の特徴について考察し、表現している。 ・宗教改革とヨーロッパ人の海外進出、および宗教改革と科学革命の結びつきについて考察している。 ・ヨーロッパ人の海外進出によってアメリカ大陸とアフリカ大陸にもたらされた影響を考察している。 c: ・アジアの国々を結んでいたアジア域内貿易のあり方について追究しようとしている。 ・江戸時代の日本の対外貿易を、東アジアだけではなく世界的な観点から再構築しようとしている。 ・ヨーロッパにおける中央集権的な国家体制の成立と海外進出の結びつきを追究しようとしている。 ・「大航海時代」の結果として進んだ「世界の一体化」と現代の「世界の一体化」＝グローバル化の共通点と相違点を見出そうとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

	2　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	産業革命やアメリカ独立革命、フランス革命などの19世紀の欧米、アジアの植民地化と東アジア諸国の開国について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・ウィーン会議の内容とウィーン体制の特徴を理解している。 ・クリミア戦争の経過とその重要性を理解している。 ・地図の比較から、ヨーロッパによる東南アジアの植民地化を読み取っている。 ・開国を転換点として、江戸幕府と朝廷・諸大名の関係に変化が生じたことを理解している。 b: ・産業革命による工業化や交通革命・通信革命などの変化、軍事技術の発展などによって西ヨーロッパを中心とした植民地支配が一層拡大したことを考察している。 ・アメリカ独立革命がその後の世界にあたえた影響を比較しながら、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・フランス革命がその後の世界にあたえた影響を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・資本主義に対抗する論理として社会主義がうみ出された背景について、具体的な人物などをあげながら考察している。 ・南北戦争後の黒人差別について、理念と実状との違いについて多面的・多角的に考察している。 ・開国によって世界と結びついたことによる江戸幕府や諸藩における知識・技術の受容と、日本と欧米諸国とのあいだの貿易の特徴を考察している。 c: ・アメリカ独立革命とフランス革命によってうみ出された理念や考え方について追究しようとしている。 ・二つの革命の歴史的意義を見出そうとしている。 ・今日の国家につながるイタリアやドイツの統一が、ヨーロッパのパワーバランスにどのような影響を与えたのかを検討しようとしている。 ・今日のアメリカ合衆国における黒人差別の問題と南北戦争が結びつく構造を見出そうとしている。 ・開国後の欧米列強との貿易における中国と日本の輸出入品から、共通点や相違点を見出そうとしている。 ・幕末の動乱と欧米諸国との関係について、事件を整理しながら追究しようとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

	3 明治維新と日本の立憲体制	日本の明治維新と諸改革、対外関係や立件体制の形成について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・大政奉還の上表以降、明治新政府が成立していった経緯を理解している。 ・四民平等へ向けた諸改革を理解し、文明開化の風潮と広まりを整理し、理解している。 ・明治新政府が、諸外国と具体的にどのような関係を築こうとしたかをまとめている。 ・隣国である清・朝鮮と結んだ外交関係を理解している。 ・日本人の海外渡航がおこなわれた社会的な背景を理解している。 ・自由民権運動の展開について、民撰議院設立の建白の史料をもとに、その目的を整理し理解している。 ・大日本帝国憲法の成立過程を理解し、その下で成立した制度や諸法典の内容を理解している。 b: ・大政奉還の上表・五箇条の誓文の史料を読み、新政府の方針を比較して共通点・相違点を考察している。 ・四民平等の原則により、同じ義務をもつ国民が形成され、徴兵や租税の徴収がどのようにして実施されたのか考察している。 ・自由民権運動の展開について、民権運動の担い手側と政府の側の双方についてその動きを比較して、表現している。 ・松方財政について政策の内容を理解し、それが自由民権運動にどのような影響をあたえたかを、具体的な事件にもふれて考察している。 c: ・新政府の方針をとらえるとともに、諸藩がどのように対応したかを、新政府側、諸藩側の立場にたって探究しようとしている。 ・条約や条規の内容をもとに、日本の領土画定の経緯とその課題について調べ、追究しようとしている。 ・大日本帝国憲法の史料を読み、その内容について現在の日本国憲法と比較して、相違点や共通点について具体的に追究しようとしている。 ・大日本帝国憲法や諸法典が具体的にドイツ理論やフランス法からどのような影響を受けているかを追究しようとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

2	4 帝国主義の展開とアジア	日清戦争と日露戦争、日本の産業革命の影響について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・日清戦争の原因・過程・結果を年表にまとめている。 ・日清戦争後に政府が軍備拡張と産業育成を進めるにあたり、政党がどのように対応したかを理解している。 ・日本の産業革命について、どのような特色をもち、国内や貿易にどのような影響をおよぼしたかを理解している。 ・帝国主義について、イギリス・フランス・ドイツ・ロシア・アメリカのそれぞれの経済・政治上の動向をまとめている。 ・列強が中国に進出したことに対して、中国の人々はどのように対応したかを理解している。 b: ・日本が、朝鮮・清に対してどのような過程を経て条約を締結したかを表現している。 ・日本に、欧米の技術が本格的に導入されてから、資本主義のしくみがどのように展開したかを鉄道・紡績などを比較して、考察している。 ・帝国主義の生まれた背景や進展について、主要国の動向を考察し、表現している。 ・列強とよばれる国々が、世界の大半の地域を支配下におさめていく過程を年表にまとめ、整理し、考察している。 ・清朝の滅亡と中華民国の成立について、原因と辛亥革命の過程をまとめて考察している。 c: ・日清戦争の原因・過程・結果を考察し、その後の日本の台湾・朝鮮の統治について追究しようとしている。 ・帝国主義の時代が、世界の一体化を進めたことについて、過程・結果、そしてその後の現代にいたる影響について深く、追究しようとしている。 ・列強の動きに対して、植民地された地域において人々はどのように対応していったかを追究しようとしている。 ・日露戦争の結果、日本国内や周辺地域（朝鮮・満洲）にどのような影響をおよぼしたか、多面的に追究しようとしている。 ・インド・東南アジアの民族運動、西アジアの革命について、その動向を追究しようとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

	5 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦とロシア革命、国際平和の世界世論や世界各地の民族運動について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・二十一カ条の要求に対する日中両国の動きを理解している。 ・第一次世界大戦後のパリ講和会議、ワシントン会議における各国の思惑を理解している。 ・ヴェルサイユ体制とワシントン体制による国際秩序のあり方を理解している。 ・第一次世界大戦後のアメリカの情勢とアメリカ社会のあり方が、どのように大量消費社会に結びついていったのかを理解している。 ・普通選挙の実現にいたる護憲運動を展開した人々の動きと、政府側の対応の推移を理解している。 b: ・バルカン半島の地理的・民族的・宗教的な複雑さをもとに、バルカン諸国の対立が第一次世界大戦の開戦に影響をあたえたことを多面的・多角的に考察している。 ・第一次世界大戦後のイギリス・フランス・ドイツ・イタリア各国における変化のあり方を、それぞれの国の当時の情勢から考察している。 ・各国が国際協調路線をとった背景を考察している。 ・第一次世界大戦後に植民地で民族運動が活発になったことによる影響について考察している。 ・普通選挙を求める運動において、天皇機関説や民本主義がはたした役割について考察している。 c: ・ロシア革命とソ連の成立の歴史的意義を追究しようとしている。 ・パリ講和会議、ワシントン会議における各国の思惑が条約の内容にどのような影響をあたえたのかを見出そうとしている。 ・国際連盟と国際協調路線のなかで結ばれた条約について、その成果と限界を追究しようとしている。 ・普通選挙法とともに、護憲派の内閣が治安維持法を制定した理由を追究しようとしている。 ・第一次世界大戦後に労働運動や社会運動が活発化する背景と展開を国際社会の状況と比較しながら検討しようとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

	6 経済危機と第二次世界大戦	世界恐慌の発生とファシズムの台頭、それにともなう日本の恐慌や満州事変、そして日中戦争と第二次世界大戦への流れを、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・ドイツを中心としたファシズムはどのようにして台頭してきたか年表にまとめている。 ・日中戦争のおこった背景・過程について理解している。 ・第二次世界大戦のおこった背景を理解し、ヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたのかまとめている。 b: ・世界恐慌に対して、各国の対応策を比較し、表現している。 ・ソ連の体制はファシズム体制はどのような点で類似していたかを考察し、表現している。 ・中国における北伐に対し、田中内閣はどのような対応をしていくことになったのかを考察している。 ・二・二六事件、日中戦争、三国同盟にいたる時期を年表にまとめて、その動向を表現している。 ・この時期の、日本の国民生活の変化について考察している。 ・日本とアメリカの対立の背景を、日米関係を基軸にして、多角的に表現している。 c: ・世界恐慌は、国際秩序にどのような変化をもたらしたか、資本主義国・社会主義国の視点から多面的・多角的に追究しようとしている。 ・ドイツの拡張政策に対して、ヨーロッパ諸国はどのように対応していったのかを追究しようとしている。 ・ドイツとソ連が独ソ不可侵条約を締結するにいたる過程を追究しようとしている。 ・日中戦争の長期化は、日中両国の人びとや国際社会にどのような影響をもたらしたのか、多面的・多角的に追究しようとしている。 ・三国同盟の締結が、イギリス・アメリカに対して与えた影響について追究しようとしている。 ・第二次世界大戦の終結にいたる連合国側の会議について時系列にその内容を追究しようとしている。 ・第二次世界大戦の結果、国際社会はどのように変化していくことになるかその嚆矢について追究しようとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

	7 戦後の国際秩序と日本の改革	終戦後の国際秩序と冷戦の開始、アジア諸地域の独立と占領下の日本について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・第一次世界大戦、第二次世界大戦を経て、国際社会は平和と安定をどのようにして構築していこうとしているか理解している。 ・連合国は、どのような面で日本の民主化を進めていったのか理解している。 ・日本の独立回復のための、単独講和論と全面講和論のそれぞれの主張を理解し、国際社会へどのように復帰したか理解している。 b: ・国際連合のしくみと内容について、政治的・経済的な面から理解して、新しい秩序にどう対応していくか考察している。 ・ドイツの分割統治について、アメリカ・イギリス・フランス側とソ連側を比較して考察している。 ・東アジア諸国の独立の経緯を考察し、旧宗主国はどのような対応をとったのかを、各国別に表現している。 ・日本国憲法の制定の過程を考察し、どのような手続きを経て公布、施行されたかを表現している。 ・サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約の史料を読み、日本が認めた内容を考察している。 c: ・冷戦という新たな対立がおこった、背景・過程・結果を追究しようとしている。 ・米ソの巨大化にともない、ヨーロッパ諸国が弱体化していくことについてその理由を追究しようとしている。 ・第二次世界大戦後のイスラエル成立によりパレスチナ問題が深刻化したことについて考察し、どのようにして解決できるかを追究しようとしている。 ・経済の民主化、労働運動の進展、農地改革を多面的・多角的に考察し、戦後処理のあり方を理解し、追究しようとしている。 ・日本の復興の実態とそれにともなう政策について追究しようとしている。 ・日本の占領政策が、民主化優先から経済優先へと転換された理由・過程を、国際社会の動向をふまえて多面的・多角的に追究しようとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

3	8 冷戦と世界経済	冷戦の展開と、日本の政治・経済の発展について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・西側陣営、東側陣営によるそれぞれの防衛体制の構築について理解している。 ・核兵器の独占がソ連に破られたことによりアメリカ社会が受けた衝撃を理解している。 ・東西冷戦を象徴する「ベルリンの壁」構築の背景を理解している。 ・第二次世界大戦による荒廃によって、西ヨーロッパの国際的地位が低下したことを理解している。 ・日本の国際連合加盟における課題であった、ソ連との国交樹立の経緯を理解している。 ・高度経済成長のメカニズムを整理し、日本の産業構造の変化を理解したうえで、農業の近代化についてまとめている。 ・金ドル本位制の停止が世界経済にあたえた影響を理解している。 ・石油危機が発生した背景と世界経済にあたえた影響を理解している。 ・高度経済成長後の日本の安定成長の背景を理解している。 b: ・ワルシャワ条約機構が結成された背景と、その影響について考察している。 ・核兵器開発競争の過熱化が国際連合の下で、原子力発電の開発の本格化につながったことを考察している。 ・1950 年代のアメリカ社会のあり方を軍産複合体から考察している。 ・「雪解け」や米ソ関係の冷えこみなど、冷戦下における外交関係の変化を考察している。 ・経済統合のメリットとデメリットを比較しながら、地域統合がヨーロッパ経済の発展につながったことを考察している。 ・アメリカの主導権から西ヨーロッパ諸国が脱却しようとした背景を考察している。 ・日韓基本条約・日中共同声明の史料を読み、それぞれの内容を理解し、その後の課題について表現している。 ・1970 年代の米ソの威信低下、米中接近が米ソ間の関係改善につながった点を考察している。 ・石油危機後に新自由主義が西側諸国で目指された理由を考察している。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

			・プラザ合意とバブル経済の関係について考察している。 c: ・地図を活用し、西側陣営・東側陣営が構築した防衛体制とおもな紛争地点から、その意図を見出そうとしている。 ・東西分裂期のドイツにおけるベルリンのあり方と「ベルリンの壁」が東西冷戦の象徴とされた意味を追究しようとしている。 ・EC と EFTA を、それぞれ今日の EU と EFTA と比較することで、地域統合の歴史的意義を追究しようとしている。 ・第二次世界大戦後に独立したアフリカの国々で、いまだに安定していない国家について追究しようとしている。 ・日米相互協力及び安全保障条約（新安保条約）で新しく加わった内容を理解し、条約改定に反対した運動がおきた理由を追究しようとしている。 ・高度経済成長のひずみについて、地方の過疎化、都市の過密化の課題を理解し、その課題への対応や解決について追究しようとしている。 ・開発独裁が今日にもあるとすれば、それはどのような形で存在しているのかを追究しようとしている。 ・1970～80 年代の日本の安定成長の背景にあった問題点を追究しようとしている。			

	9 グローバル化する世界	冷戦の終結とソ連の崩壊にともなう国際情勢の変化、開発途上国の民主化や地域紛争の激化について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・ゴルバチョフによる新思考外交を契機として冷戦が終結したことを理解している。 ・ゴルバチョフによるソ連の社会主義体制の改革「ペレストロイカ」の取り組みを理解している。 ・地域統合や自由貿易圏の設立とともに、世界規模での貿易を促進するＷＴＯの役割を理解している。 ・冷戦終結前後の韓国と北朝鮮における政治情勢や台湾の民主化の推進について理解している。 ・国際的な非難を受けた文革後の中国における統治政策を理解している。 ・1993 年のオスロ合意がパレスチナ問題において歴史的なものであったことを理解している。 ・55 年体制の崩壊の要因と、その結果として誕生した政権の特徴を理解している。 ・1995 年が戦後 50 年の節目の年であり、転換点としての位置づけを理解している。 b: ・イラン＝イラク戦争と湾岸戦争におけるアメリカの立場について考察している。 ・共産党一党支配と連邦制がどのようにソ連邦の崩壊に結びついたのかを考察している。 ・ユーゴスラヴィア紛争の背景にある宗教・民族分布の複雑さを考察している。 ・アフガニスタン戦争がそれまでの戦争とは異なる点を考察している。 ・イラク戦争の問題点について考察し、表現している。 c: ・東欧革命による各国での新体制を比較し、傾向を見出そうとしている。 ・市場経済の導入と民主化の要求に対する中国の対応について追究しようとしている。 ・パレスチナ自治区において分離壁が築かれ、ユダヤ人入植地が拡大していることの問題点を見出そうとしている。 ・自衛隊の海外派遣の拡大や自衛隊を取りまく政治情勢の変化について追究しようとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

	10 現代の課題	現代の世界および日本の課題について、教科書やスライドを用いて理解する。	a: ・グローバル化のなかで福祉国家体制のなかから、新たに登場した新自由主義について理解している。 ・経済格差などの課題に対してどのように対応していけばよいかを理解している。 ・エネルギー問題について、原子力発電の今後のあり方や自然エネルギーの活用について理解し、どのように対応していけばよいかを理解している。 ・人口減少の要因、今後の対応について理解している。 b: ・地域紛争やテロ、難民に対する排外主義の問題について、原因・過程を理解し、どのように対応していけばよいかを考察している。 ・自然災害について、過去の歴史も調査して、今後どのように対応していけばよいかを多角的に考察している。 c: ・人間のもつ基本的人権を理解し、男女の平等、男女差別とは異なる性的差別の問題にも着目して、どのように対応していけばよいかを追究しようとしている。 ・経済発展にくわえ、観光立国としての取り組みについて追究し、これからの日本のあり方について取り組もうとしている。 ・近隣諸国との関係について、防衛強化の面・平和と安全の面といった多面的・多角的視点からよりよいあり方を追究しようとしている。	考査	考査 レポート 課題	レポート 課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:学びに向かう力、人間性等